

# 株式会社メイテック

## 2019年3月期 第2四半期

### 決算説明会

2018年11月6日

代表取締役社長 グループCEO  
國分 秀世

人と技術で次代を拓く

**MEITEC**  
Engineering Firm at The Core

- 1. 2019年3月期第2四半期 業績**
- 2. 2019年3月期 業績予想**
- 3. ご参考資料**

- では、2019年3月期第2四半期の業績、2019年3月期の業績予想、を説明させていただきます。「ご参考資料」は、のちほどご覧ください。

# 1. 2019年3月期 第2四半期 業績

人と技術で次代を拓く

**MEITEC**  
Engineering Firm at The Core

- まず、2019年3月期第2四半期の業績を説明します。

## 2019年3月期業績 第2四半期 グループ連結

- ✓ 前期比で、売上高は3.8%増収、営業利益は7.1%増益、四半期純利益は10.2%増益
- ✓ 前期は、本社移転費用等を特別損失として計上

(百万円未満切捨て)	2018年3月期 2Q実績	2019年3月期 2Q実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	2018年5月公表 2Q期初予想	予想比 増減額
売上高	45,867	47,621	+1,754	+3.8%	47,600	+21
売上原価	34,049	35,288	+1,239	+3.6%	35,000	+288
原価率	74.2%	74.1%	▲0.1%			
販売管理費	6,375	6,505	+130	+2.0%	7,100	▲595
営業利益	5,442	5,827	+384	+7.1%	5,500	+327
営業利益率	11.9%	12.2%	+0.4%		11.6%	+0.7%
経常利益	5,447	5,830	+382	+7.0%	5,500	+330
特別損益	△60	9	+70			
税金等調整前四半期純利益	5,386	5,840	+453	+8.4%		
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,526	3,885	+359	+10.2%	3,600	+285
四半期純利益率	7.7%	8.2%	+0.5%			

- グループ連結の業績です。
- 主要顧客の大手製造業で、技術開発投資を持続されたため、連結売上高の9割以上を占めるエンジニアリングソリューション事業が、業績をけん引し、売上高は、前年同期比3.8%増収の476億21百万円、営業利益は、前年同期比7.1%増益の58億27百万円となりました。
- 四半期純利益は、前期の本社移転費用などのような特別損失がないため、前年同期比10.2%増益の38億85百万円となりました。

# 2019年3月期業績 第2四半期 グループ・セグメント

- ✓ エンジニアリングソリューション事業が業績をけん引⇒前期比で売上高は3.8%増収
- ✓ エンジニア紹介事業は紹介者数の増加等により増収増益

(百万円未満切捨て)	2018年3月期 2Q実績	2019年3月期 2Q実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
エンジニアリングソリューション事業 売上高	45,100	46,792	+1,692	+3.8%
構成比	98.3%	98.3%	▲0.1%	
営業利益	5,163	5,535	+372	+7.2%
エンジニア紹介事業 売上高	818	894	+75	+9.3%
構成比	1.8%	1.9%	+0.1%	
営業利益	279	291	+12	+4.4%

- グループ・セグメントの業績は記載の通りです。
- エンジニアリングソリューション事業は前年同期比で売上高は、3.8%の増収、営業利益は、7.2%の増益となりました。
- エンジニア紹介事業は、メイテックネクストの紹介者数増加を背景に、増収増益を達成できました。

# 2019年3月期業績 第2四半期 メイテック

- ✓ 前期比で、売上高は1.6%増収、営業利益は4.8%増益、エンジニア社員数は2.4%増加
- ✓ 稼働率は4月新卒エンジニア社員数が前期より多かったため、前期比で▲0.6%

(百万円未満切捨て)	2018年3月期 2Q実績	2019年3月期 2Q実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	2018年5月公表 2Q期初予想	予想比 増減額
売上高	35,544	36,116	+571	+1.6%	36,200	▲84
売上原価	26,601	26,969	+368	+1.4%	26,900	+69
原価率	74.8%	74.7%	▲0.2%		74.3%	+0.4%
販売管理費	4,512	4,502	▲10	▲0.2%	4,900	▲398
営業利益	4,430	4,644	+213	+4.8%	4,400	+244
営業利益率	12.5%	12.9%	+0.4%		12.2%	+0.7%
経常利益	5,179	5,388	+209	+4.0%	5,100	+288
特別損益	△ 29	10	+39			
税引前四半期純利益	5,149	5,398	+248	+4.8%		
四半期純利益	3,608	3,808	+200	+5.6%	3,600	+208
稼働率(全体)	96.8%	96.2%	▲0.6%		95.5%	+0.7%
稼働時間(h/day)	8.68	8.56	▲0.12	▲1.4%	8.68	▲0.12
エンジニア社員数(名)	6,850	7,011	+161	+2.4%		

9

- メイテック単体の業績です。
- 稼働人員数の増加、平均対価の上昇などにより、売上高は、前年同期比1.6%増収の361億16百万円、営業利益は、4.8%増益の46億44百万円、四半期純利益は、5.6%増益の38億8百万円となりました。
- 稼働率は、今年4月入社の新卒エンジニア社員数が前期より多かったため、前年同期比で▲0.6%低下の96.2%となりました。
- なお、稼働時間は、前年同期比、期初予想比共に▲0.12時間低下しました。詳細は、のちほど説明します。

# 2019年3月期業績 第2四半期 メイテックフィルダース

- ✓ 前期比で、売上高は14.1%増収、営業利益は20.0%増益、エンジニア社員数は12.8%増加
- ✓ 稼働率は4月新卒エンジニア社員数が前期より少なかったため、稼働率は前期比+0.7%

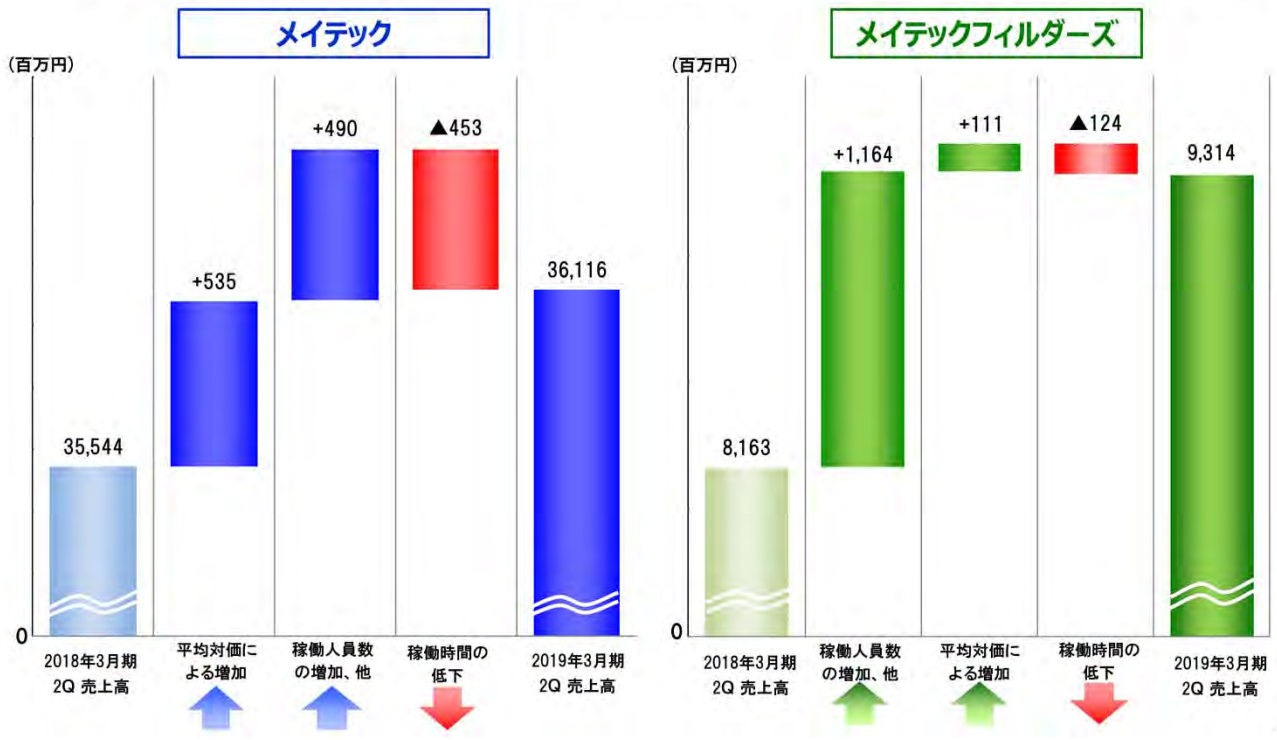
(百万円未満切捨て)	2018年3月期 2Q実績	2019年3月期 2Q実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	2018年5月公表 2Q期初予想	予想比 増減額
売上高	8,163	9,314	+1,151	+14.1%	9,100	+214
売上原価	6,357	7,245	+888	+14.0%	7,100	+145
原価率	77.9%	77.8%	▲0.1%		78.0%	▲0.2%
販売管理費	1,129	1,256	+127	+11.3%	1,300	▲44
営業利益	677	812	+135	+20.0%	700	+112
営業利益率	8.3%	8.7%	+0.4%		7.7%	+1.0%
経常利益	674	812	+138	+20.5%	700	+112
特別損益	0	0	—			
税引前四半期純利益	674	812	+137	+20.4%		
四半期純利益	462	561	+99	+21.4%	450	+111
稼働率(全体)	94.1%	94.8%	+0.7%		92.4%	+2.4%
稼働時間(h/day)	8.75	8.61	▲0.14	▲1.6%	8.75	▲0.14
エンジニア社員数(名)	2,262	2,552	+290	+12.8%		

10

- メイテックフィルダースの業績です
- 稼働人員数の増加などを主因に、売上高は、前年同期比14.1%増収の93億14百万円、営業利益は、20.0%増益の8億12百万円、四半期純利益は、21.4%増益の5億61百万円となりました。
- 稼働率は、今年4月入社の新卒エンジニア社員数が前期より少なかったため、前年同期比+0.7%増加の94.8%となりました。
- 稼働時間は、メイテック同様、低下が見られましたが詳細は、のちほど説明します。

# 売上高前年同期比較

✓ メイテック、メイテックフィルダース共に、増収の主要因は「稼働人員数の増加」、「平均対価による増加」

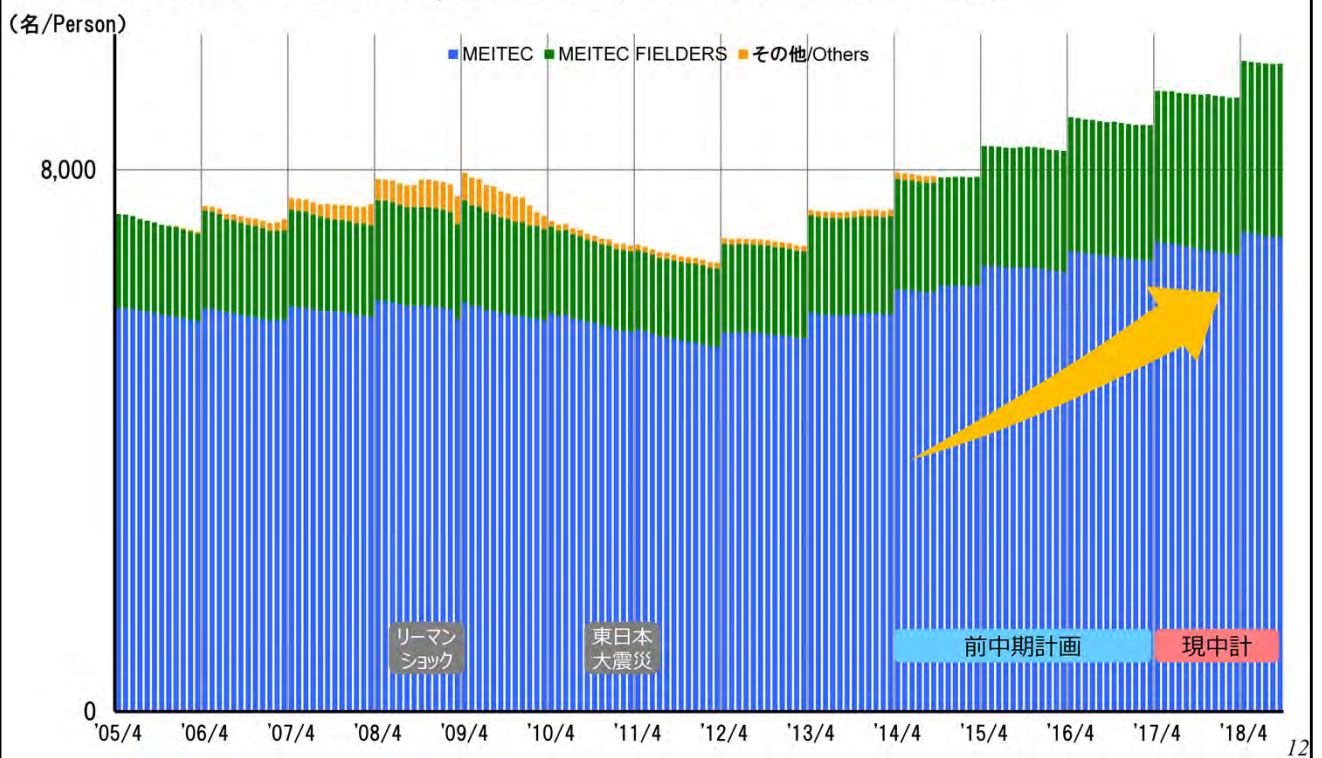


- メイテック、メイテックフィルダースの売上高の対前年同期の増減内訳です。
- 両社ともに増収の主な要因は、「稼働人員数の増加」、特にメイテックでは「平均対価による増加」であり、その影響額は、記載の通りです。



# エンジニア社員数 グループ連結

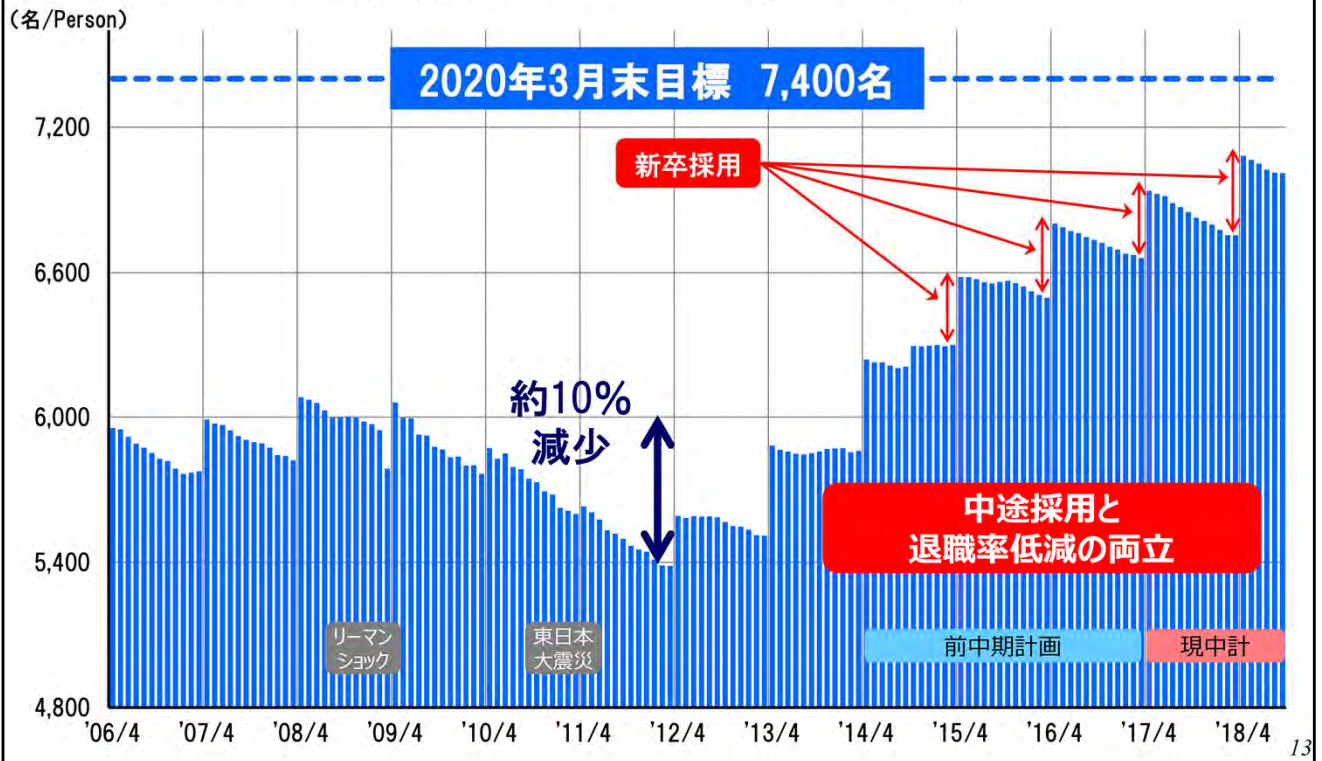
✓ 9月末のエンジニア社員数は9,563名（前年9月末比+451名、+4.9%）



- グループのエンジニア社員数の推移です。
- 2018年9月末のエンジニア社員数は、前年9月末比+451名、+4.9%増の9,563名となりました。
- メイテック、メイテックフィルダーズ共に着実に増員できています。

# エンジニア社員数 メイテック

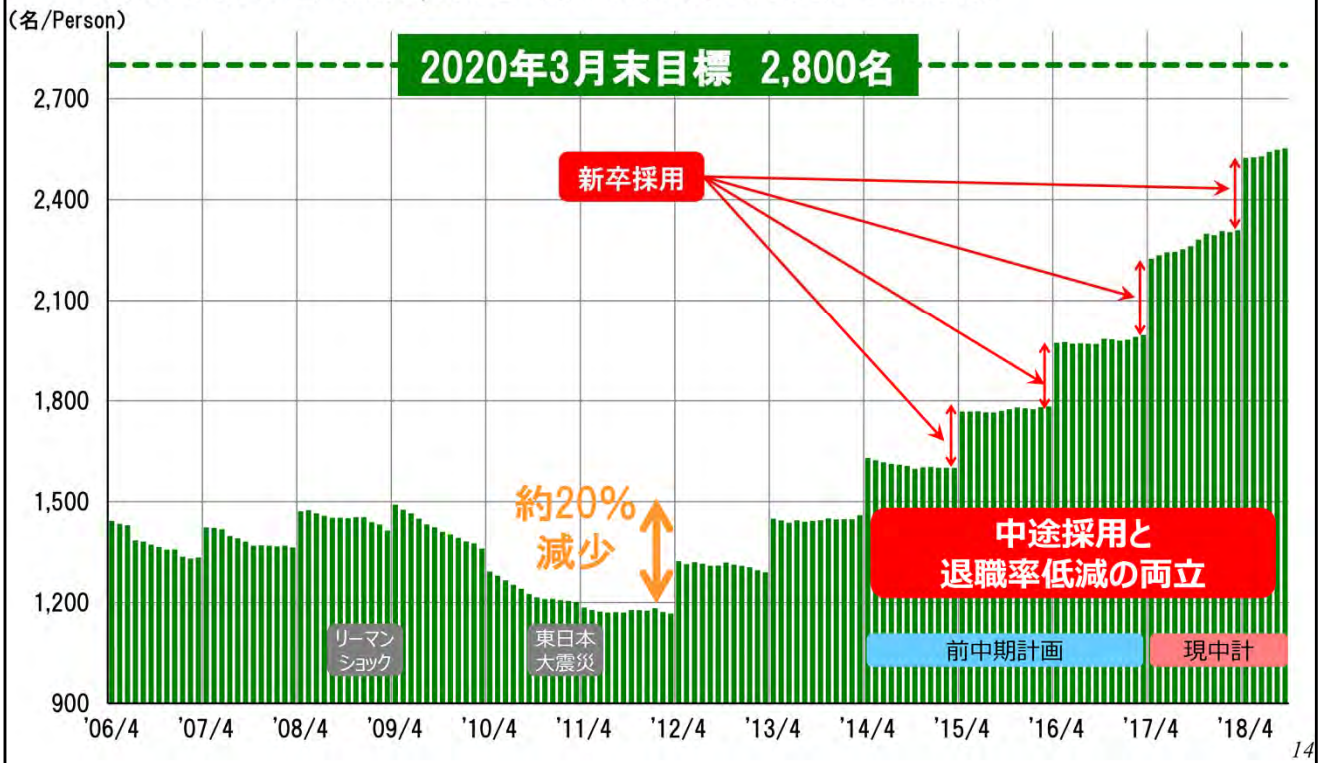
✓ 9月末エンジニア社員数は7,011名（前年9月末比+161名、+2.4%）



- 続いて、メイテック単体のエンジニア社員数の推移です。
- 2018年9月末のエンジニア社員数は、前年9月末比+161名、+2.4%増の7,011名となりました。
- 中期経営計画で掲（かか）げた、2020年3月末のエンジニア社員数の目標7,400名まで、あと約400名です。依然として厳しい採用環境が続いていますが、様々な方策を講じて、応募者獲得力の強化を図ること、応募者の方々の志向を大切に活動を展開し、エンジニア社員数の増員を進めて参りたいと考えています。

# エンジニア社員数 メイテックフィルダース

✓ 9月末エンジニア社員数は2,552名（前年9月末比+290名、+12.8%）



- メイテックフィルダースのエンジニア社員数の推移です。
- 2018年9月末のエンジニア社員数は、前年9月末比+290名、+12.8%増の2,552名となりました。
- 中期経営計画で掲(かか)げた2020年3月末のエンジニア社員数の目標2,800名まで、あと約250名です。

# 2019年3月期の採用状況

**中途採用（2019年3月期）**

- ✓ メーカーをはじめ、技術者の求人ニーズに衰えは見られず、採用環境は継続して厳しい状況
- ✓ こうした状況下、受注動向に即した機械系・電気電子系を中心に採用基準を保持し、円滑な配属を前提とした活動を継続中
- ✓ 採用目標数は、メイテックは期初予想通りの160名を堅持、メイテックフィルダースについても期初予想から変更なし

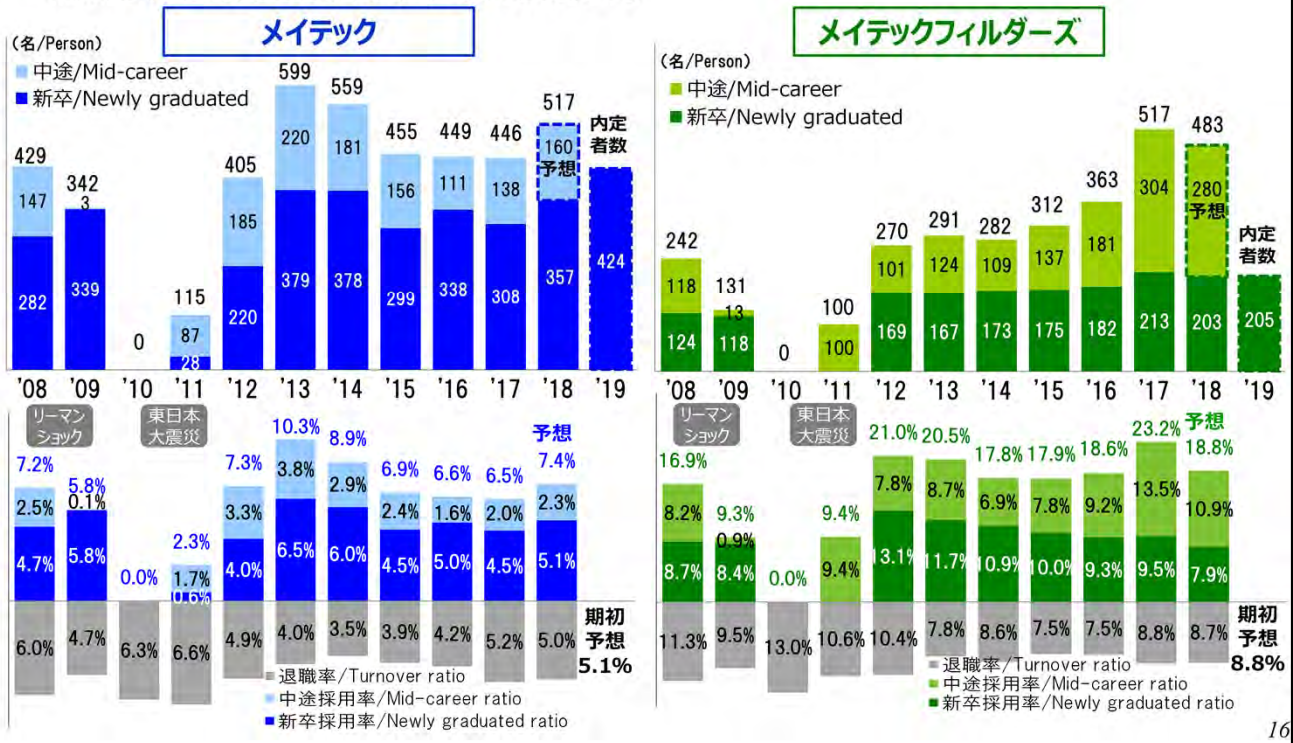
**新卒採用（2019年4月入社）**

- ✓ 企業の採用意欲が高まり、採用環境は厳しさが増す中、新卒世代の傾向を念頭に置き、採用基準保持を前提とした活動を継続
- ✓ 応募者の業界絞り込み早期化や、地元への就職志向が依然として強いことから、応募者数確保に苦戦
- ✓ 内定者数はメイテックで期初予想比+24名の424名、メイテックフィルダースは同比▲35名の205名

(名)	2019年3月期					2020年3月期	
	18年4月入社 新卒採用数 (実績)	中途採用数		採用数合計		19年4月入社 新卒採用数 (10月1日内定者数)	期初予想比
		<目標>	期初予想比	<目標>	期初予想比		
メイテック	357	160	—	517	—	424	+24
メイテック フィルダース	203	280	—	483	—	205	▲35
合計	560	440	—	1000	—	629	▲11
18年3月期比	+39	▲2		+37			

- 続いて、採用の状況です。  
中途採用は、技術者の求人ニーズに衰えは見られません。  
そして、採用環境は厳しい状況が継続していますが、受注動向に則して「質を重視」し、採用基準を保持しながら、採用に注力しています。  
なお、採用は概ね計画通りに推移しているため、年間の採用目標の変更は行いません。
- 次に、2019年4月入社の新卒採用の状況です。  
応募者の業界絞込みの早期化や地元への就職志向が依然として強いことなどから、応募者数の確保に苦戦を強いられましたが、採用基準を保持しつつ、新卒世代の志向の傾向を念頭に活動した結果、10月1日の内定者数は、グループ全体で若干下回り、期初予想比 ▲11名の629名となりました。
- なお、内定者数629名の水準は、新聞報道によると、日本企業全体では22位、理工系だけでは3位です。
- これは、メイテックグループであれば、安心してプロのエンジニアとして生涯働き続けられるということが、労働市場において、一定のご理解、共感を得ている一つの成果と考えております。
- これからも、エンジニアという働き方を世の中に訴求しながらもメイテックグループの採用ブランドを、更に強固にしていきます。

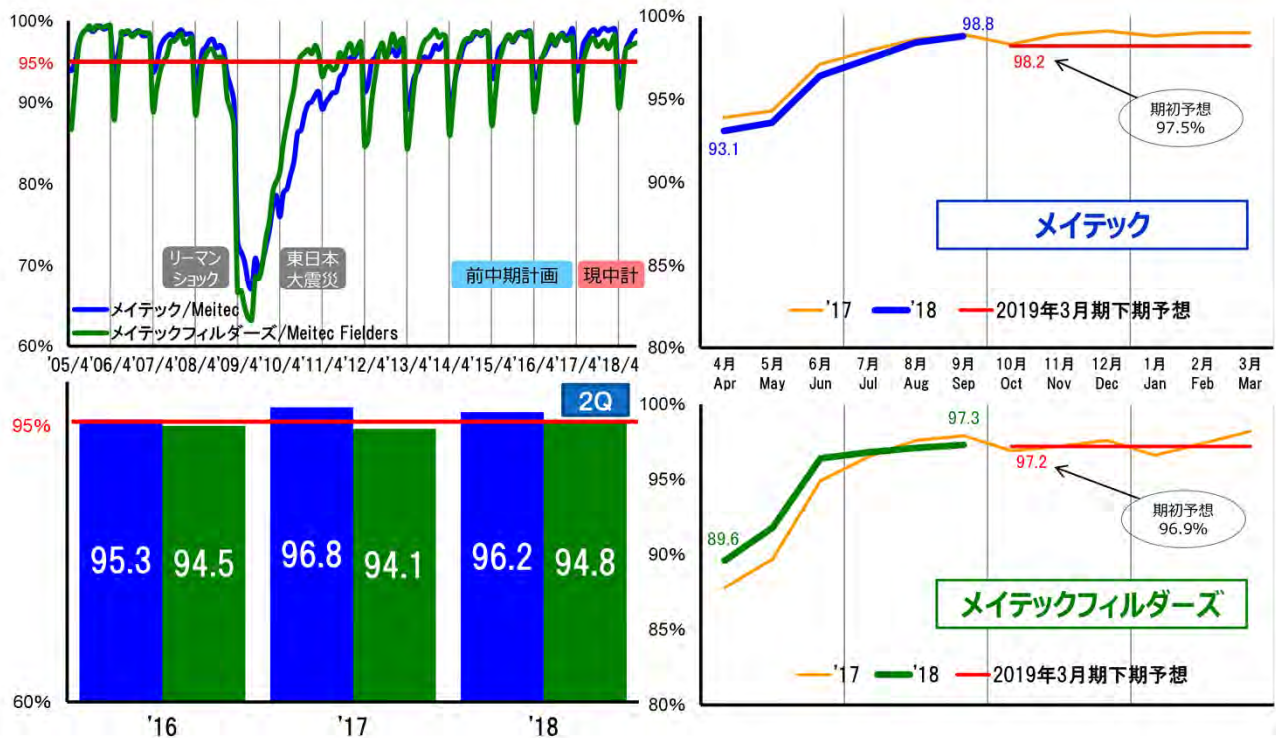
✓ 第2四半期決算公表時点の採用者数と退職率見込みは以下の通り  
※採用率・退職率の実績は来年5月に公表予定



- 第2四半期決算公表時点の採用者数と退職率の見込みです。
- 退職率の見込みは、上半期実績を踏まえ、  
 メイテックは期初予想の5.1%から5.0%、  
 メイテックフィルダースは期初予想の8.8%から8.7%に修正しました。

# 稼働率

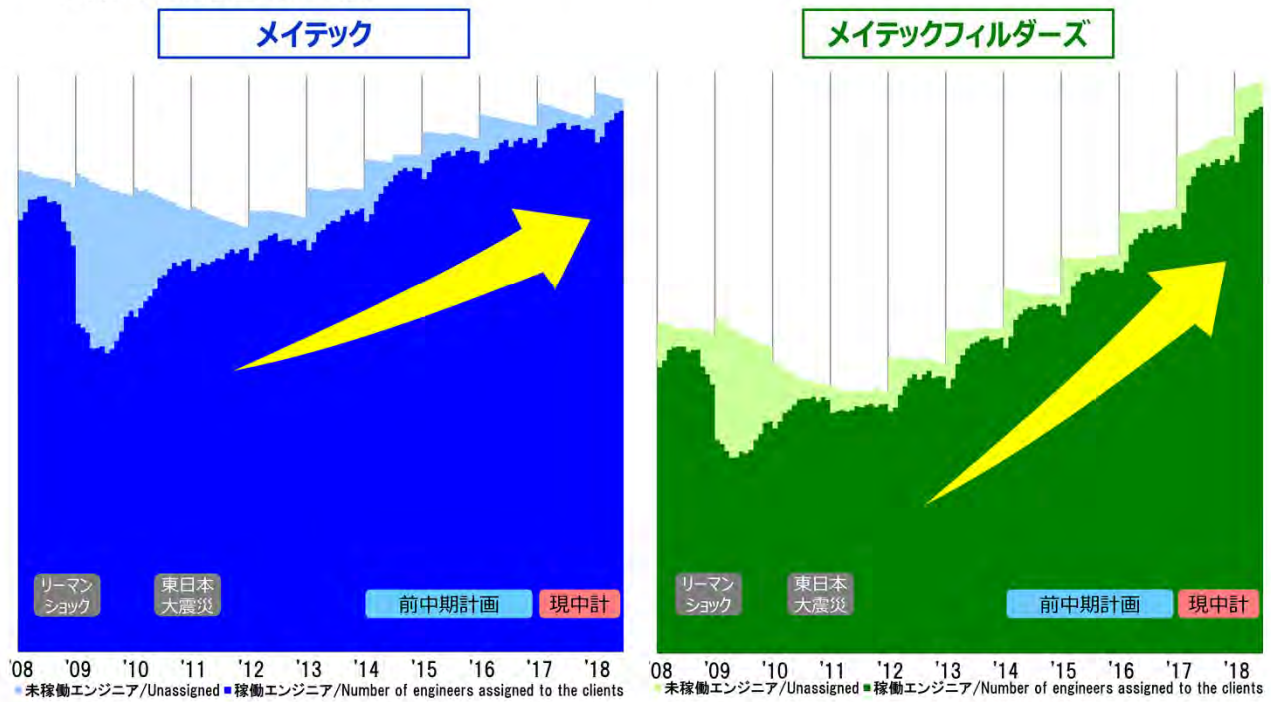
✓ 堅調な受注環境の下で稼働率は高水準を維持



- 稼働率の推移です。
- メイテック、メイテックフィルダース共に、堅調な受注環境のもと、新卒エンジニア社員、既存エンジニア社員共に順調に配属を進められたことから、安定して推移しました。
- なお、メイテックフィルダースは、新卒エンジニア社員数が前年よりも約10名少なかったこともあり、4月単月の稼働率は、前年よりも高い数値でスタートしました。

# 稼働人員数 (売上の主要素)

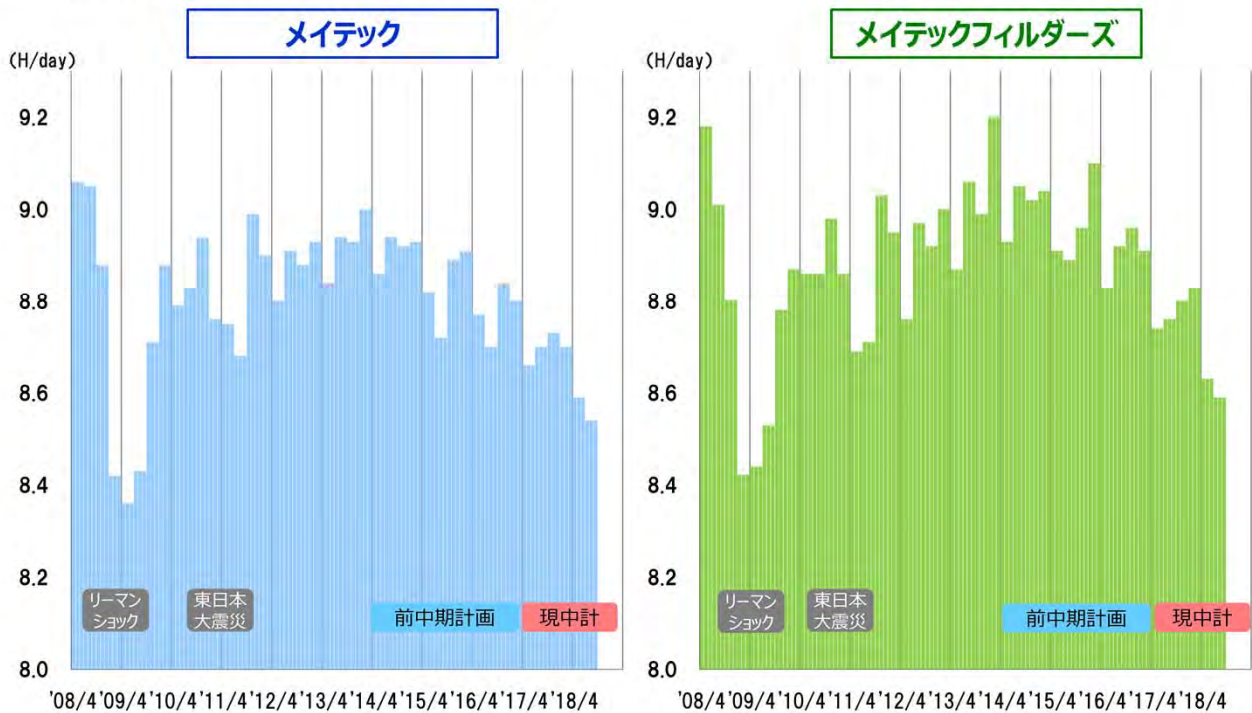
- ✓ 積極採用による「エンジニア社員数の増員」、受注獲得と早期配属による「高稼働の維持」を両立し、稼働人員数を着実に伸長



18

- 稼働人員数の推移です。
- 「エンジニア社員数の増員」並びに、受注と成約活動の推進による「高い稼働率の維持」が達成できたため、稼働人員数は順調に伸びています。

✓ 時間外労働の減少を背景に前年比で低下

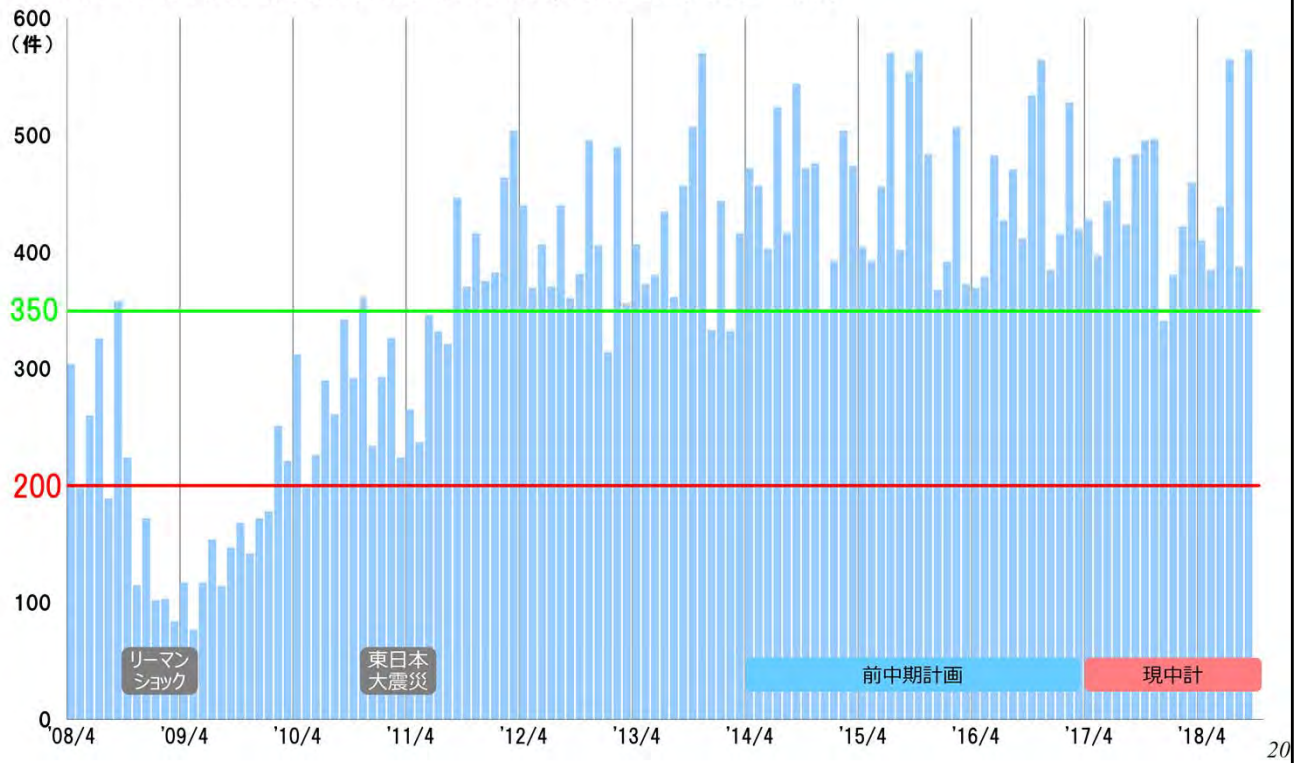


19

- 稼働時間の推移です。
- 時間外労働の減少は昨年から引き続いております。また、上半期については、祝日が多かったことに加え、台風などの自然災害の影響もあり、前年同期比、期初予想比、共に若干下回りました。
- 稼働時間は、お客さま先の業務指示の結果なので、当社側でコントロールは不可能ではありますが、稼働時間0.1時間の変動で売上高は約1%変動することから、業績影響の大きい指標の一つであるため、今後も継続して注視していきます。



✓ メイテック単体の月間新規受注は、350件/月を超える水準を維持



- 月間新規受注動向の推移です。
- 月間350件を超える新規受注件数をいただければ堅調、200件を下回る水準は危険な状態、と判断してきました。
- 足元は製造業のお客さまが長い視点で技術開発投資を進められていますので、実感としては明確に、その結果が新しい受注の推移になっていると認識しています。

# お客さまの売上TOP10 メイテック

✓ お客さま（個別企業）に関する事項および具体的計数の公表は差し控えます

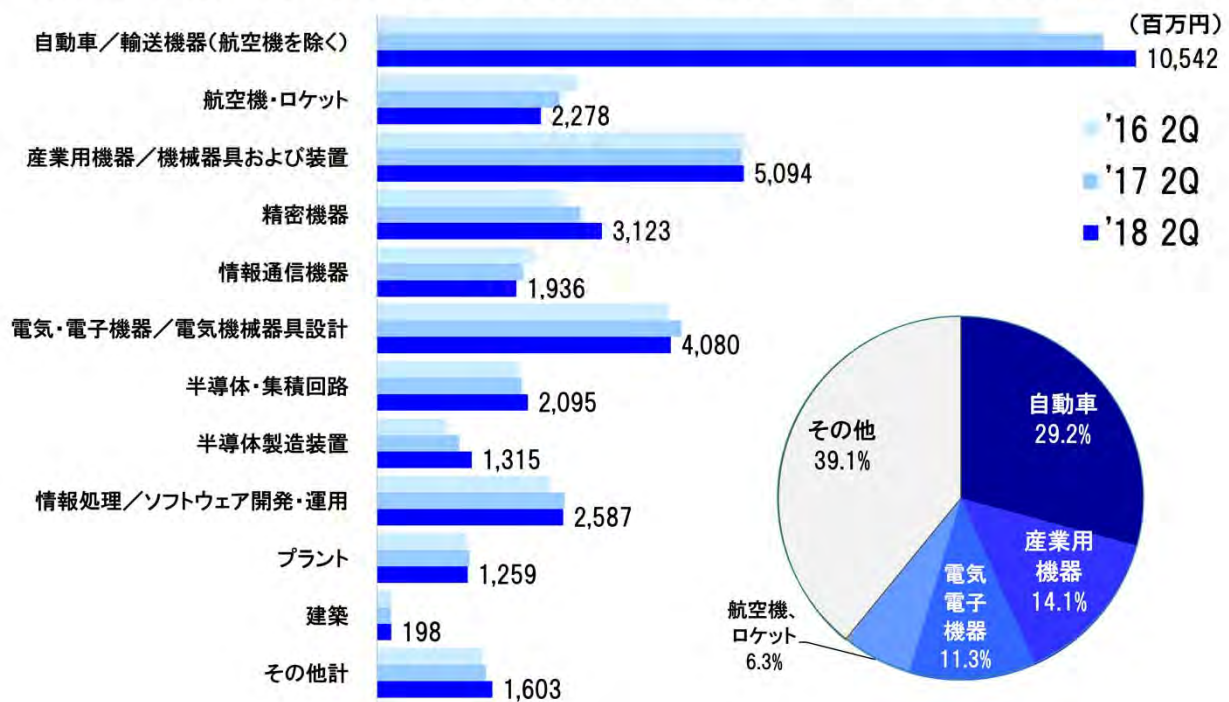
(百万円)

2014年3月期2Q (2013年度)			2018年3月期2Q (2017年度)			2019年3月期2Q (2018年度)		
1	三菱重工業 様		1	三菱重工業 様		1	デンソー 様	
2	デンソー 様		2	デンソー 様		2	三菱重工業 様	
3	ニコン 様		3	キヤノン 様		3	パナソニック 様	
4	キヤノン 様		4	パナソニック 様		4	ソニーセミコンダクタソリューションズ 様	
5	パナソニック 様		5	ソニーセミコンダクタソリューションズ 様		5	キヤノン 様	
6	川崎重工業 様		6	ニコン 様		6	トヨタ自動車 様	
7	ソニー 様		7	トヨタ自動車 様		7	ニコン 様	
8	トヨタ自動車 様		8	川崎重工業 様		8	本田技術研究所 様	
9	東芝 様		9	オートリブ 様		9	オリンパス 様	
10	オムロン 様		10	オムロン 様		10	オムロン 様	
トップ10社合計	7,697	27.3%	トップ10社合計	8,501	23.9%	トップ10社合計	8,584	23.8%
トップ20社合計	10,862	38.6%	トップ20社合計	12,263	34.5%	トップ20社合計	12,324	34.1%
その他	17,287	61.4%	その他	23,281	65.5%	その他	23,792	65.9%
合計	28,150	100.0%	合計	35,544	100.0%	合計	36,116	100.0%

21

- メイテックのお客さまの売上TOP10です。
- 順位に変動はありますが、TOP10圏内に入るお客さまに大きな変化はありません。
- たえず、お客さまの中での新しいプロジェクト、あるいは新しい技術開発テーマに即した、成長セクター、分野、新しい技術領域へ意図的な当社サイドのローテーションを図りながらも、我々エンジニアの技術力を高めつつ、お客さまに対する付加価値を高めていく取り組みを続けていきます。
- 特定のお客さまに偏（かたよ）らず、幅広くサービスを展開することは、メイテックの強みです。これからもその強みを強化していきたいと考えます。

✓ お客さま（個別企業）別の内訳や見通しの公表は差し控えます（計数はご参考資料に掲載）



22

- 業種別の売上高です。
- 「自動車関連」の伸びが非常に顕著です。  
広い分野や業種のお客さまと取引させて頂くことにより、特定の分野や業種が厳しい状況にあっても、意図的にエンジニアを他の業界や分野にシフトすることを可能としています。
- これがメイテックの強みですので、これからもニーズ、市場動向というものをしっかりと注視しながら対応していきたいと考えています。
- 以上、2019年3月期第2四半期業績について、ご説明致しました。

## 2. 2019年3月期 業績予想

人と技術で次代を拓く  
**MEITEC**  
Engineering Firm at The Core

- 続いて、2019年3月期の業績予想などを足元の状況を踏まえて修正しましたので、その概要を説明します。

## 2019年3月期業績予想 グループ連結 期初予想比

- ✓ 売上高は、上半期実績が概ね期初予想通りのため、修正なし
- ✓ 営業利益は、期初予想比+4億円 = 【上半期+3億円】+【下半期+1億円】  
なお、販売管理費は、期初予想▲6億円 = 【上半期▲6億円】+【下半期±ゼロ】
- ✓ 当期純利益：期初予想比+3億円 = 【上半期+約3億円】+【下半期±ゼロ】

(百万円未満切捨て)	'19年3月期 公表予想	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率	2四半期累計 実績	下半期予想 3Q+4Q	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率
売上高	97,000	—	—	47,621	49,378	▲21	—
売上原価	71,000	+200	+0.3%	35,288	35,711	▲88	▲0.2%
販売管理費	14,000	▲600	▲4.1%	6,505	7,494	▲5	▲0.1%
営業利益	12,000	+400	+3.4%	5,827	6,172	+72	+1.2%
営業利益率	12.4%	+0.4%		12.2%	12.5%	+0.2%	
経常利益	12,000	+400	+3.4%	5,830	6,169	+69	+1.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	8,100	+300	+3.8%	3,885	4,214	+14	+0.3%
1株当たり当期純利益(EPS)	290.27	+13.53		138.39			

25

- 2019年3月期のグループ連結の新たな業績予想と期初予想との比較です。
- 連結の売上高は、上半期実績が概ね期初予想通りに推移したため、970億円から修正はいたしません。  
営業利益は、期初予想比+4億円の120億円に修正いたしました。  
これは販売管理費の減少を見込んでいるためです。
- 当期純利益は、期初予想比+3億円の81億円に修正いたしました。

## 2019年3月期業績予想 グループ連結 前期比

- ✓ 売上高は前期比+3.6%の970億円、営業利益は同比+4.7%の120億円を予想
- ✓ 当期純利益は前期比▲0.4%の81億円を予想  
⇒前期のような特別損益の発生を見込んでいないため

(百万円未満切捨て)	'19年3月期 公表予想	前期比 増減額	前期比 増減率	2四半期累計 実績	下半期予想 3Q+4Q	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	97,000	+3,381	+3.6%	47,621	49,378	+1,626	+3.4%
売上原価	71,000	+1,749	+2.5%	35,288	35,711	+509	+1.4%
販売管理費	14,000	+1,089	+8.4%	6,505	7,494	+959	+14.7%
営業利益	12,000	+542	+4.7%	5,827	6,172	+157	+2.6%
営業利益率	12.4%	+0.2%		12.2%	12.5%	▲0.1%	
経常利益	12,000	+534	+4.7%	5,830	6,169	+151	+2.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	8,100	▲31	▲0.4%	3,885	4,214	▲391	▲8.5%
1株当たり当期純利益(EPS)	290.27	+3.63		138.39			

26

- 続いて、前期実績との比較です。  
売上高は、前期比+3.6%、+34億円の増収、  
営業利益は、前期比+4.7%、+5億円の増益予想としました。
- 当期純利益は、前期のような特別損益の発生を見込んでいないため、前期比▲0.4%、▲0.3億円と、若干の減益予想としました。

# 2019年3月期業績予想 メイテック 期初予想比

- ✓ 売上高は稼働時間低下を見込み、期初予想比▲1億円（微減）
- ✓ 営業利益は期初予想比+3億円＝【上半期+約3億円】+【下半期±ゼロ】

(百万円未満切捨て)	'19年3月期 公表予想	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率	2四半期累計 実績	下半期予想 3Q+4Q	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率
売上高	73,300	▲100	▲0.1%	36,116	37,183	▲16	—
売上原価	54,100	—	—	26,969	27,130	▲69	▲0.3%
原価率	73.8%	+0.1%		74.7%	73.0%	▲0.1%	
販売管理費	9,600	▲400	▲4.0%	4,502	5,097	▲2	—
営業利益	9,600	+300	+3.2%	4,644	4,955	+55	+1.1%
営業利益率	13.1%	+0.4%		12.9%	13.3%	+0.1%	
経常利益	10,300	+300	+3.0%	5,388	4,911	+11	+0.2%
当期純利益	7,200	+200	+2.9%	3,808	3,391	▲8	▲0.3%
稼働率(全体)	97.2%	+0.7%	期初予想比 +0.7%	96.2%	98.2%	+0.6%	
稼働時間<h/day>	8.58	▲0.12		8.56	8.60	▲0.11	
採用数<名>	517	—					
新卒採用数	357	—					
中途採用数	160	—					
退職率	5.0%	▲0.1%					
				2019年4月入社の 新卒採用見込み数		期初 予想比	
				424		+24	

27

- メイテック単体の新たな業績予想と期初予想との比較です。
- 売上高は、稼働時間の低下を見込み、期初予想比▲1億円の733億円としました。
- 売上高の下半期予想は、稼働率の上昇、平均対価の上昇で補うことを見込んでいるため、期初予想と略(ほぼ)同水準としました。
- 営業利益は、採用関連費用の減少などによる、販売管理費の減少を見込み、期初予想比+3億円の96億円としました。
- 当期純利益は、期初予想比+2億円の72億円としました。

## 2019年3月期業績予想 メイテック 前期比

- ✓ 売上高は前期比1.4%増収の733億円、営業利益は同比+2.8%の96億円を予想
- ✓ 販売管理費は、期初から計画した採用関連費用とシステム関連費用の増加

(百万円未満切捨て)	'19年3月期 公表予想	前期比 増減額	前期比 増減率	2四半期累計 実績	下半期予想 3Q+4Q	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	73,300	+1,047	+1.4%	36,116	37,183	+475	+1.3%
売上原価	54,100	+238	+0.4%	26,969	27,130	▲129	▲0.5%
原価率	73.8%	▲0.7%		74.7%	73.0%	▲1.3%	
販売管理費	9,600	+551	+6.1%	4,502	5,097	+561	+12.4%
営業利益	9,600	+257	+2.8%	4,644	4,955	+43	+0.9%
営業利益率	13.1%	+0.2%		12.9%	13.3%	▲0.1%	
経常利益	10,300	+194	+1.9%	5,388	4,911	▲14	▲0.3%
当期純利益	7,200	▲261	▲3.5%	3,808	3,391	▲461	▲12.0%
稼働率(全体)	97.2%	▲0.6%		96.2%	98.2%	▲0.6%	
稼働時間<h/day>	8.58	▲0.12		8.56	8.60	▲0.11	
採用数<名>	517	+71					
新卒採用数	357	+49					
中途採用数	160	+22					
退職率	5.0%	▲0.1%					
				2019年4月入社の新卒採用見込み数		18年4月実績比	
				424		+67	

28

- 続いて、前期実績との比較です。
- 売上高は、前期比+1.4%、+10.5億円の増収、営業利益は、前期比+2.8%、+2.6億円の増益、当期純利益は、前期比▲3.5%、▲2.6億円の減益予想としました。
- これは、前期に計上した本社移転関連の特別損益を見込んでいないこと、また、税負担の軽減などが今期は無いためです。



# 2019年3月期業績予想 メイテックフィルダーズ 期初予想比

- ✓ 売上高は期初予想比+2億円 = 【上半期+2億円】 + 【下半期±ゼロ】
- ✓ 営業利益は期初予想比+0.5億円（微増）

(百万円未満切捨て)	'19年3月期 公表予想	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率	2四半期累計 実績	下半期予想 3Q+4Q	期初予想比 増減額	期初予想比 増減率
売上高	19,000	+200	+1.1%	9,314	9,685	▲14	▲0.2%
売上原価	14,650	+150	+1.0%	7,245	7,404	+4	+0.1%
原価率	77.1%	—	—	77.8%	76.4%	+0.1%	—
販売管理費	2,700	—	—	1,256	1,443	+43	+3.1%
営業利益	1,650	+50	+3.1%	812	837	▲62	▲6.9%
営業利益率	8.7%	+0.2%	—	8.7%	8.7%	▲0.6%	—
経常利益	1,650	+50	+3.1%	812	837	▲62	▲7.0%
当期純利益	1,050	+50	+5.0%	561	488	▲61	▲11.2%
稼働率(全体)	96.0%	+1.3%	期初予想比 +2.4%	94.8%	97.2%	+0.3%	—
稼働時間<h/day>	8.64	▲0.14	—	8.61	8.67	▲0.14	—
採用数<名>	483	—	—	2019年4月入社の新卒採用見込み数		期初 予想比	—
新卒採用数	203	—	—	205		▲35	—
中途採用数	280	—	—				—
退職率	8.7%	▲0.1%	—				—

29

- メイテックフィルダーズの新たな業績予想と期初予想との比較です。
- 上半期実績が期初予想を上回ったため、売上高は、期初予想比+2億円の190億円、営業利益は、期初予想比+0.5億円の16.5億円で微増としました。
- 売上高の下半期予想は、稼働時間の減少を見込んでいますが、稼働人員数の増加と平均対価の上昇で補うことを見込み、期初予想と略(ほぼ)同水準としました。

# 2019年3月期業績予想 メイテックフィルダース 前期比

- ✓ 売上高は前期比11.9%増収の190億円、営業利益は同比+13.2%の16.5億円を予想
- ✓ 販売管理費は、期初から計画した採用関連費用の増加

(百万円未満切捨て)	'19年3月期 公表予想	前期比 増減額	前期比 増減率	2四半期累計 実績	下半期予想 3Q+4Q	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	19,000	+2,018	+11.9%	9,314	9,685	+867	+9.8%
売上原価	14,650	+1,476	+11.2%	7,245	7,404	+588	+8.6%
原価率	77.1%	▲0.5%		77.8%	76.4%	▲0.9%	
販売管理費	2,700	+348	+14.8%	1,256	1,443	+221	+18.1%
営業利益	1,650	+192	+13.2%	812	837	+57	+7.4%
営業利益率	8.7%	+0.1%		8.7%	8.7%	▲0.1%	
経常利益	1,650	+197	+13.6%	812	837	+59	+7.6%
当期純利益	1,050	+18	+1.8%	561	488	▲80	▲14.2%
稼働率(全体)	96.0%	+0.3%		94.8%	97.2%	▲0.1%	
稼働時間<h/day>	8.64	▲0.14		8.61	8.67	▲0.14	
採用数<名>	483	▲34					
新卒採用数	203	▲10					
中途採用数	280	▲24					
退職率	8.7%	▲0.1%					
				2019年4月入社の 新卒採用見込み数		18年4月 実績比	
				205		+2	

30

- 続いて、前期実績との比較です。  
売上高は、前期比+11.9%、20億円増収の190億円、  
営業利益は、前期比+13.2%、約2億円増益の約16億円と  
しました。  
販売管理費は、前期比で+14.8%増加していますが、  
これは、採用関連費用の増加によるものです。
- 当期純利益は、前期比+1.8%増益の10.5億円としました。

# 利益配分に関する基本方針

✓ 2018年11月、自己株式の保有上限を改定：発行済総数の5% ← 2百万株

2018年11月改定  
2017年5月改定  
2011年5月改定  
利益配分方針

1. 自己資本の“質と量”が充実していること
2. 資金残高が事業運営上の必要資金\*を上回っていること  
(\*連結売上高の月商3ヶ月分)

**総還元性向：100%以内を原則**

**配当**

**業績連動型配当：連結当期純利益の50%以上**

最低限の配当：連結株主資本配当率(DOE)5%

**自己株式の  
取得・  
保有・消却**

**取得：総還元性向と配当性向の水準を勘案して適宜実施**

**保有：発行済総数の5%を上限**

**消却：上限超を当期末までに消却**

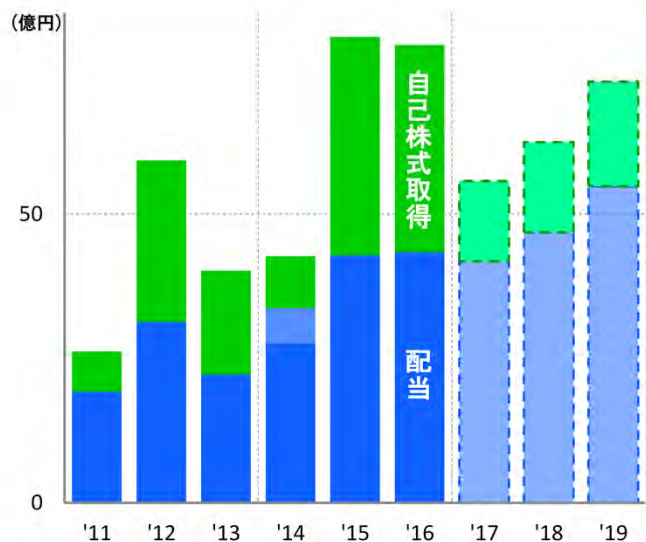
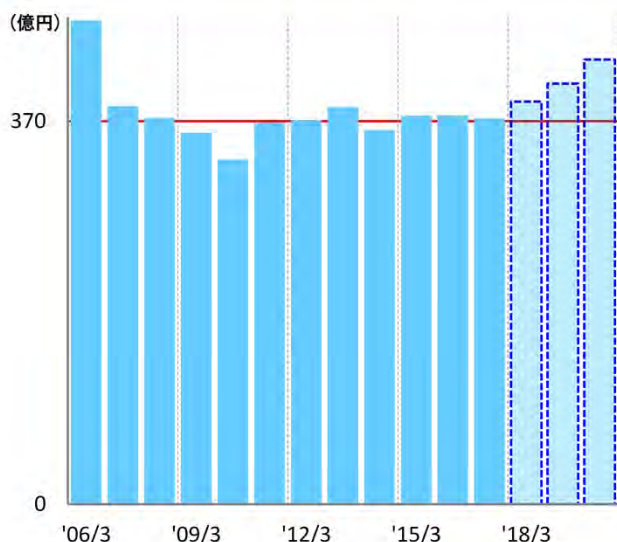
✓ 自己株式は、経営計画の目標達成等に向けて、今後の成長戦略の実行と成長に伴うリスクに対処していく機動的な財務政策を可能とするために保有

3/

- 利益配分の実績と予想についてご説明いたします。
- 今回、「利益配分に関する基本方針」の自己株式の保有上限を、2百万株から発行済総数の5%に見直しました。
- 見直しの背景は、自己株式の保有上限を2百万株に設定してから10年が経過しており、その間、自己株式の取得および消却に伴う発行済み株式数の減少により、上限株数の持分比率が上昇したためです。
- 自己株式の保有上限以外に変更はありませんが、今般、基本方針は変更させて頂きました。

1. エンジニア社員数の増加に伴い自己資本の充実を図り、計画最終年度'20年3月末の自己資本を約400億円\*に積み増す  
(\*期末配当控除後)

2. 3ヶ年の総還元性向は80%程度  
(1) 配当性向60%  
(2) 自己株式取得20%  
(内訳は株主・投資家との対話を反映)

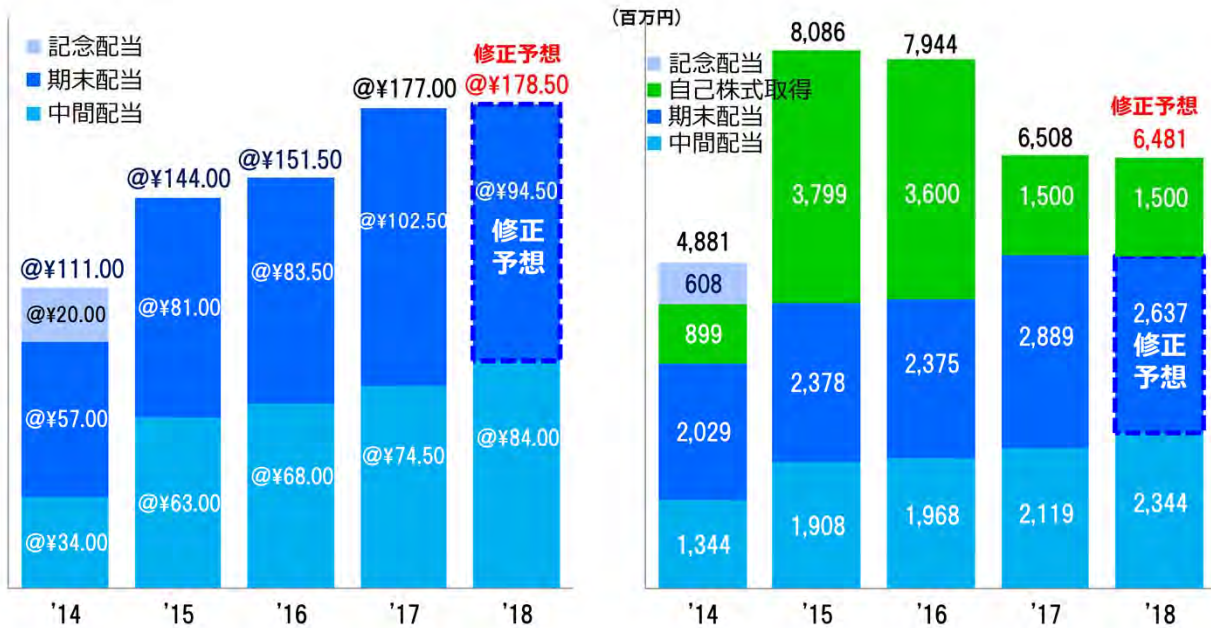


32

- 2017年5月11日の決算説明会でご説明しておりますが、中期計画3ヶ年の利益配分計画についても変更はありません。

# 利益配分の実績と予想

- ✓ 業績予想修正に伴い、中期経営計画の利益配分計画 総還元性向80%程度（配当性向60%、自己株取得20%）に即して、利益配分を見直し
- ✓ 総還元性向80% = (普通配当50億円 + 自己株式取得額15億円) ÷ 当期純利益予想81億円



33

- 3ヶ年の利益配分計画で掲げた、総還元性向80%程度、内訳は配当性向60%、自己株式取得20%にそって配当を見直しました。
- 上半期の当期純利益が期初予想を上回ったため、中間配当を見直し、期初予想比+7円の1株あたり84円に上方修正しました。
- また、年間の純利益予想は81億円に上方修正となったことから、配当性向60%に基づき、期末配当予想は期初予想の92円から+2円50銭の94円50銭とし、年間配当予想は178円50銭としました。

- ✓ **コード改訂の趣旨を踏まえ、取締役会で協議を重ねて議論を深め、「基本方針」と「選任・指名の基準」を改定**  
※詳細は当社ウェブサイト、東証宛報告書をご覧ください  
<https://www.meitec.co.jp/company/principal/governance.html>
  
- ✓ **社外役員から「会社の考えを積極的に開示すべき」という意見もあり、エクスプレインは新たに6つ加えて全7項目**  
(選解任の方針と手続き、CEO等の後継者計画、報酬の決定方法、CEO選解任、ジェンダーと国際性、投資等の資源配分の事前説明、内部通報)

- 最後に、コーポレートガバナンス・コードの改訂に伴う対応についてです。
- コード改訂の趣旨を踏まえ、取締役会で協議を重ねて、議論を深め、コーポレートガバナンスに関する基本方針の他、役員を選任基準などを改定し、本日公表しましたので、のちほど当社ウェブサイトでご覧いただけると幸いです。
- 社外役員から、「会社の考えを積極的に開示すべき」との意見もあり、エクスプレインは新たに6つ加えて、全部で7項目となりました。
- 今後も実効性を高められるよう、鋭意努力を続けて参ります。
  
- 私からの説明は以上です。  
今後も皆様のご期待に応え続けられるよう、努力して参ります。  
引き続き、ご理解、ご支援の程、宜しくお願い致します。  
ご清聴、ありがとうございました